

サンホセ市議会副議長来岡!!

横浜市で開催された、第4回ピースメッセンジャー都市会議参加のため来日された、コスタリカ共和国サンホセ市議会副議長エリアス・リザノ・ハルキン氏は8月27日から29日の間、岡山に立ち寄り、市長表敬訪問をはじめ、後樂園、瀬戸大橋などを視察されました。

*同氏滞在中、スペイン語通訳で御協力いただいた苔口政恵さんにほのほのしたエピソードを語っていただきました。

苔 口 政 恵

ラテン系の方は概して気さくで陽気な人が多いのですが、コスタリカの方は、私の知る限り少し雰囲気の違い、随分真面目な面が加わるように思われます。

サンホセ市副議長も、気さくで誠実で、それにユーモアのセンスのある方で、しばしば飛び出してくるジョークに頭の回転の速い方だと感心させられました。お会いするまでは少々緊張していた私も、すぐに打ち解けてしまいました。特に印象に残ってい

るのは地震騒動(?)のことです。コスタリカも地震の多い国だそうで、お会いして最初の話題が地震のことでした。そしてその翌日、市長表敬訪問の時でした。会談が終り、みんなで立ち上がった時を見計らったようにグラグラとかなり大きな揺れがあったのは、すかさず「私が来たせいですよ。」と副議長さん。こちら側も負けじと「いえいえ、あなたを歓迎してのことですよ。」とんだハプニングでしたが、とにかく楽しくお仕事をさせて頂きました。



市長表敬訪問時、ハルキン氏と苔口さん



姉妹都市 サンホセ交流展開催

会員 谷 義 仁

(岡山・サンホセ交流協会会長)

前回(1989年)サンホセ市を訪問したあと、「遠い国、近い国」と題して、遠いコスタリカの国が近い国になればとの思いを込め、何回か筆をとりました。

私達、岡山市サンホセ交流協会は「細く、長く、と気の長い交流活動」を続けていますが、あの遠い国がどれだけ近くなったのだろうかとの思いもあります。



会場は多くの市民で賑わった

12月24日から27日まで、岡山市並びに当協議会と岡山・サンホセ交流協会が共催で岡山市役所1階市民ホールで「姉妹都市サンホセ交流展」を開催しました。会場には岡山・サンホセ交流協会会員の撮した写真約300点余りを中心に過去の交流のあゆみが紹介されました。

その活動のひとつとして、昨年の暮れ市役所1階のロビーで、岡山とサンホセとの交流写真展を開きました。写真の中では、一昨年の秋から来岡して、造園関係の研修をしていたサンホセ市の職員、ラウル、フェルナンド両氏の日本での研修風景が沢山紹介されていました。

平成6年は、岡山市とサンホセ市の姉妹都市締結25周年になります。この年には、私達もサンホセ市を訪問し、交流を温め、また、ラウル、フェルナンド両氏とも再会したいと計画しております。協議会の皆様にも多数御参加いただければと、今からお願いいたしております。

インターナショナル

インターナショナル・ウィーク事業実行委員会と岡山市では市民の皆さんに身近な国際交流を体験していただくために、11月3日から10日までの日程で、『インターナショナル・ウィーク '91』を開催し、市内各地で数々のイベントが繰り広げられました。



▲オープニングセレモニー華やかに開催
(11/3、石山公園)



◀国際協力
シンポジウム
(11/4、三光荘)

「子供が選ぶ明日の地球」～子供の権利条約と国際協力へと題して開催。海外からはタイ児童財団事務局長クームプラパント氏を招き、世界中の子供の未来を考えた。

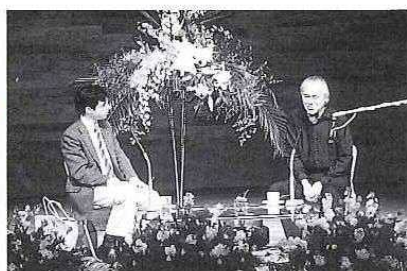
ワールド・フォト・コレクションを担当して 武市昌之

(岡山県青年館常務理事)

今回で第二回目を迎えたインターナショナル・ウィーク事業は「ふるさと創生資金」を浄財にして、岡山市国際交流基金の運用費を使い、岡山市民と岡山在住の外国の人々が身近な国際交流を体験することにより、相互理解と友好を深め国際化時代に向けての感覚を少しでも広く市民に体験していただく事を目的として行われた事業です。私の担当しました「ワールド・フォト・コレクション」は近年、多くの方が色々な国へ出掛けられますが、訪れた国での思い出に残る写真を出展していただき、市民の方々による投票で市民の方々の目で見たい一番良い作品を選び記念品を贈りました。

今回の写真展では、湾岸戦争の影響によりヨーロッパ方面の国々の作品が前回と比べて少なかった事など、出展作品が少なく、こんな事にまで世界での事件が影響してくるものかと、この写真展を通じて改めて世界の中の日本という事を考えさせられました。最後にこの写真展に御協力を賜りました方々に深くお礼を申し上げますとともに、このインターナショナル・ウィークが少しでも岡山市民と外国の方々の友好親善につながればと思っています。

(写真左が筆者)



▶フォーラム
(11/9、西大寺
市民会館)

「私達の誇り、美しい地球」～よき地球市民であるためには?～と題して開催。第1部ではギタリスト中林淳真氏のギター演奏を混ぜたトークショー。第2部は地球環境問題の身近な事例の活動報告が行われた。



◀ハロー!
わいわいバス
ツアー
(11/9、県南)

市民と外国人がともに過ごした秋の一日。児島唐琴高田織物工場や塩田田野崎家旧宅の見学を通し、岡山の文化・産業に対する理解を深めるとともに、鷺羽山ハイランド等で楽しい一時を過ごした。

ウィーク'91



**お国自慢料理
準備奮闘の記**
 会員 畠 瀬 恵美子
 (畠瀬恵美子料理塾塾長)

インターナショナル・ウィークお国自慢料理の準備に教室を使用させてほしいとの申し出を受けて、さてどんなことになるかと思っている私の前に「すべての責任は私が持ちます」と現れた偉丈夫今井大ボスの一声にほっとした私の所へ、次々と、ベルギー、ロシア、トルコ、アフリカ、台湾等の人々が手伝いの学生と4~5人のグループで現れて準備が始まった。言葉はお互いに半分位しか通じていない様だけど、ロシアのゆでぎょうざ風は凝った割に？ベルギーは材料のじゃが芋や油にこだわって二日とも夜中までの頑張り、単なるフライドポテトと言

なけれ、たちまち売切れの好評。前日地図を片手に教室の下見までしたアフリカさんは、さすがに早く準備を終え、台湾ビーフン料理はみんな手慣れたもので、手早く済んだ。しかし、シシカバブのトルコさん、開会式用の自分の国旗が間に合わないのではとの心配がちだったけど、当日嬉しそうに国旗を持って入場した彼女の笑顔にはほっとした。韓国さんは材料調達に手間取ったけど下ごしらえは手早く、日本担当のお嬢さん達、お寿司を作るというのに卵焼きだけ作って、御飯が出来るまでのんびりしていました。「合わせ酢？具は？」と心配する私の前で、白い粉末を御飯に振りかけ、缶詰の具をばらばらと混ぜ込んで出来上がり。世の中進んでいる！休日中で助手達はお休み。私一人で道具出し、手伝い、掃除と奮闘したけど、会場へも何度も行って各国の料理を食べたり、踊ったり見たり楽しいウィークでした。

留学生らによる
お国自慢



お国自慢料理
や特産品の
展示即売

地球ファミリーランド (11/3・4、石山公園)



◀何でも喋ろう・あれこれパーティー
(11/10、三光荘)

▶ファイナルパーティー
(12/15、ホテルニューオカヤマ)



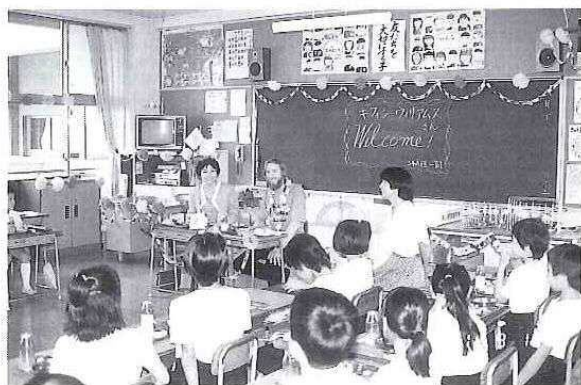
外国人と市民が自由に語り合ってもらおうと開催。参加者は老若男女約200人という盛況ぶり、歓談の後、抽選会、出し物、合唱等々にぎやかな楽しい一時となった。

インターナショナルウィーク事業に協力した実行委員、関係者が集い、今回の反省と次回の抱負を語り合い懇親を深めた。

～ボランティア通訳奮戦記～

「ボランティア通訳・翻訳登録制度」には現在、106人が登録し、観光案内、交流会等での通訳や手紙の翻訳等、様々な分野で活躍しておられます。

9月10日、「岡山国際交流フェスティバル'91」参加のため来岡中のオーストラリア音楽バンド一行が平福小学校を親善訪問した際、何人かの登録者の皆さんにも御活躍いただきました。



▲児童達と楽しい給食（正面左端が筆者）

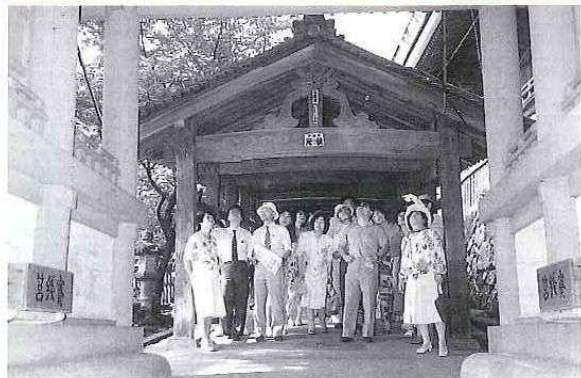
初めての体験

浅野民子

初めての体験で落ち着かない朝でした。今日はオーストラリア訪問団との交流会です。気持ちを引きしめ平福小学校へ行き、挨拶・歓迎のパフォーマンス、訪問団演奏、そして全員でフォークダンスが始まった頃から皆んなの気持ちが和み、すばらしい交流会になりました。続いて給食会、クラスの先生の進行で給食をとり、児童の質問、楽な気持ちでいたつもりだったのですが、一人の児童が「どこから来ましたか」と英語で質問したのに、緊張の余り日本語に訳して伝えてはっとしました。でも次々と質問が続いていくうち雰囲気慣れ、楽しみながらその場を終える事ができました。しかしまだまだ英語の未熟さに痛感せざるをえません。こういう公的な場で、重大な役割に参加できた満足感で次の機会に向けて頑張ろうと一段と勇気がわいてきました。家庭という小さな世界に、国際交流という大きな世界をバランスよく生活の一部に加えることができたらどんなにすばらしいことでしょう。

★ ★ ★ 第3回 ボランティア

7月6日、通訳ガイド技術の向上を目的に「第3回ボランティア通訳研修会」を開催しました。今回も昨年度に引き続き、岡山市シルバー人材センター生きがい事業団観光ガイド班班長の桑島一男氏を講師に、高松最上稲荷、高松城址、吉備津神社の案内について研修しました。また、昼食は井山宝福寺境内で精進料理を楽しみました。



▲高松城水攻め跡

400年前の壮大なドラマに想いを馳せた

◀吉備津神社回廊

素晴らしい建築の見どころの伝授を受けた

～ホームステイ体験～

「ホームステイ・ホームビジット引受家庭登録制度」には現在90家庭が登録しています。「インターナショナル・ウィーク事業'91」の一環で一般市民に募集した「ホームステイ体験」(11/9・10)には本登録家庭からの応募もあり、計17名の外国人が日本の家庭と交流を深めました。

国境を越えた国際交流

秋山 郁子

息子の留学で私の家族は市のホームステイをしようと試みました。平成2年3年と二人の青年を受け入れました。家族の理解はもちろん友人も交えて祭りや食事・旅行も楽しんでいます。

マレーシア生れのロスリーアフマド君は四季を通じて折々の行事を体験しました。また、シカゴ生まれのトム・サベージ君は家族を呼んで日本の正月を楽しみました。とても明るい家族で和やかにすごすことができました。

環境や習慣は違っても一期一会を大切にせらず飾らず、そのまま接すればお互いに心が通うものです。例えば最初は大切なお客様なので、玄関から

応接間にそして座敷で食事を取る。次回は友人扱いで勝手口から台所へそして居間でくつろぐなど配慮しています。和製英語でもいいのです。身振り手振り、それでも通じない時は息子が通訳して助けてくれます。

ロスリ君は我家のアイドル。岡山弁がとても上手で、すっかり我家の一員に溶け込んでいます。時折細かい声で電話がかかると我子以上に心配になります。喜怒哀楽がわかちあえることは素晴らしいことです。トム君は社会人です。底抜けに明るい確り者です。

日本の歴史に興味を持って庭園や史跡を訪ねています。

出合いがあつて別れがある。この二人の青年が大きく成長して母国へ帰る日まで楽しい交流をしようと思っています。



ロスリ君、トム君一家も一緒に賑やかなお正月(後方中央エプロン姿が筆者)

通訳研修会 ★★★★★

地域におけるボランティア通訳の役割 森 隆之

経済・学術・文化等様々な分野で国際交流が活発化しているが、地域レベルでの国際交流を考えた場合、ボランティア通訳の果たすべき役割はいかなるものか。

まず、地域における国際交流のビジョン—1人ひとりの市民が異文化とどのようにかかわっていくのか。地域社会が異文化をどのように受け入れていくのか—が必要であり、その中で積極的なボランティア通訳の活用を検討すべきであろう。今回の研修に参加して、草の根レベルでの国際親善には語学力の向上はもちろんのこと、地域のことを貪欲に学ぶ姿勢が必要だということを痛感した。

行政サイドからの支援として、県内在住の外国人

との意見交換の場の設定を望みたい。テーマは日常生活における物の見方・考え方の違い、外国人受入れ体制の是非等。相互理解に役立つと同時に、今後ますます地域での活躍が期待されるボランティア通訳の資質アップにもつながるものにしてほしい。



熱心に説明に聞き入る参加者(中央が筆者)

*本協議会では今後も様々な研修会を企画したいと思いますので、皆様の御意見、御要望をお待ちしています。

『すばらしい出会いを通して』

平成2年度派遣サンノゼ交換学生

藤本 敦子

サンノゼでの一年は本当にあっという間に過ぎた気がします。アメリカ人の友人にそう言うと「それは楽しく充実した日々を送ったという証拠だね」と言われましたが、まさにその通りです。初めてのア



パーティーの席、お琴で国際親善

メリカ生活—もちろん戸惑いや失敗もありましたが、毎日が驚きと感動に包まれた、新しい体験の連続だったといえます。特に交換学生としての活動を通して、多くの人々に接する機会に恵まれ、私なりに日本文化をアピールした事は有意義な事でした。中でも、小学校訪問した時の子供達のキラキラした瞳や真剣に聞き入る表情、また、フェスティバルで習字を披露した時、長い行列が出来たこと等忘れ難い思い出です。私が多くの出会いを通して、アメリカ文化を学び、すばらしい体験をしたと同様に、このような私たちの活動がほんの小さな記憶としてでも彼らの心の片隅に残り、いつかそれが日本に対する興味や親しみのきっかけになってくれれば、と願ってやみません。

♥♥♥ My Memory

サンノゼ♥♥♥

日本のトイレットペーパー

平成2年度派遣サンノゼ交換学生

長原 博子

交換学生の活動の一環で小学校訪問をした時のことだった。大半が移民の子供という教室に入った瞬間、こわいと思った。それは初めて感じる種類の空気に驚いたといった方が正しいかもしれない。子供達の中に流れる空気に手を触れると感電してしまうのではないと思うほどのパワーを感じた。

お互いに英語が母国語ではないため、むこうもこちらも必死だった。その中で、精神的に少し遅れがあるからとあらかじめ先生から耳うちされていた男の子から質問をうけた。「日本ではどんなトイレットペーパーを使ってるの？」事前に用意・練習されたものではなく、彼が私達交換学生を見て、素朴に感じた疑問だった。啞然とする先生を横目に、一生懸命答えた。

あの学校での子供達の目が私を「生活すること」にもっと食欲にさせたのではないかと思う。どんな環境でも暮らしていく強さを「人種のるつぼ」の国で本当に教えられたような気がする。



岡山親善訪問団と共にサンノゼ市役所を訪問
(写真最前列右が筆者)

ふれあいトピックス

岡山市の国際交流を考える集い（'91.3.26～'92.3.26）▶

「広く市民の意見を取り入れ、国際交流事業や国際化推進事業等のあり方について考える」ため、各界の市民代表者19名で構成する『岡山市の国際交流を考える集い』を設置。委員会、市民対象のアンケートや視察を実施し、そのまとめとして市長に提言書を提出した（'92.3.27）

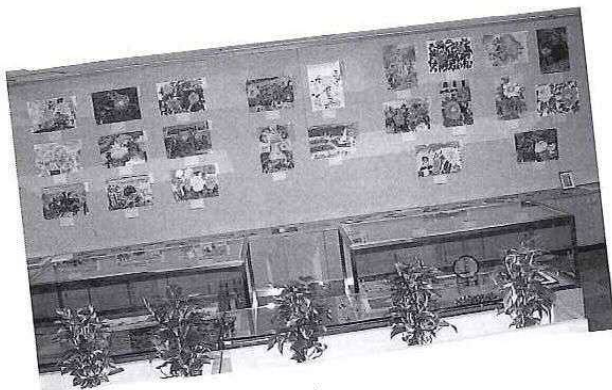


▶ 洛陽牡丹祭（'91.4.20～21）

岡山・洛陽友好都市縁組10周年を記念して、岡山市半田山植物園内の洛陽牡丹園で『洛陽牡丹祭』が開催。その一環として開催された写生大会では（4/20）、優しい牡丹仙女像の見守る中、多くのチビッコ芸術家が誕生した。

▶ 栄えある洛陽市名誉市民証受賞（'91.4.14）

中村包行氏（岡山アスコン(株)代表取締役）が洛陽市名誉市民証を受賞。洛陽市内の牡丹大酒店にて授与式が行われた。（写真：帰国後市長に受賞報告をする中村氏〈中央〉）



▶ 『洛陽牡丹写生大会』優秀作品展示会（'91.5.9～31）

4月20日に開催した（上記）『洛陽牡丹写生大会』の優秀作品展示会を岡山市立中央図書館で開催。特選4名、入選10名、佳作9名が選ばれ、特選のうち本協議会会長賞は、岡山市立鹿田小学校5年生、田口たかひろ君が受賞。

▶ 国際交流講演会（'91.4.25）

1991年度総会終了後、ボランティア・グループ「アウトロー」代表、今井龍祥氏による「あなたは地球人？」と題した講演会が開催され、国際交流の意義について一緒に考えた。





◀ 洛陽市報道機関訪日視察団 ('91.5.20~24)

洛陽市民に友好都市“岡山”の現状を知っていただくため、報道関係者で構成された『洛陽市報道機関訪日視察団』一行5名(団長:洛陽市報道協会会長 王国平氏)を受け入れた。一行は、行政・教育・衛生・流通・農工業・報道等幅広い分野の視察を精力的にこなした。

▼ 洛陽市女性友好訪日団 ('91.6.28~30)

須賀川市の招きで来日した馬延軍副市長を顧問とする「洛陽市女性友好訪日団」一行6名が友好親善と視察のために岡山市に立ち寄った。(写真:市長表敬訪問)



◀ サンノゼ・ボーイスカウト来岡 ('91.7.8~9)

西本願寺サンノゼ別院611地区ボーイスカウト団一行69名が来岡。岡山市内のスカウト宅にホームビジットして交流を深めた。(岡山第1地区はサンタクララ・ボーイスカウト連盟と兄弟地区を締結している。<1987年>)

サンノゼ数学大会表彰式 ('91.9.3)

1990年12月21日実施された第23回「岡山・サンノゼ姉妹都市中学生親善交換数学大会」の表彰式が市役所でとり行われた。この日はJETプログラム(外国青年招致事業)の英語指導助手として8月に来岡したばかりのエリザベス・バートンさん(サンノゼ出身)も特別に出席した。



◀ 『第1回日中友好祭』開催 ('91.7.11~18)

岡山県日中友好協会主催『第1回日中友好祭』が岡山県立体育館で開催。中国物産の即売や中国文化紹介が行われたが、洛陽市からも書道家一行(団長:劉昆洛陽市対外友好協会副会長)も特別参加し、地元書道家と交流を深めた。



サンノゼ日本町コーポレーション一行来岡
('91.10.6~9)

現在、日系人を中心として、サンノゼ日本町の大規模な再開発事業が計画。この一環として、サンノゼ日本町コーポレーション一行(ヨシ・ウチダ会長、トーマス・サカモト社長他3名)が来岡。市・経済界関係者らと懇談した。(写真:市長表敬訪問)

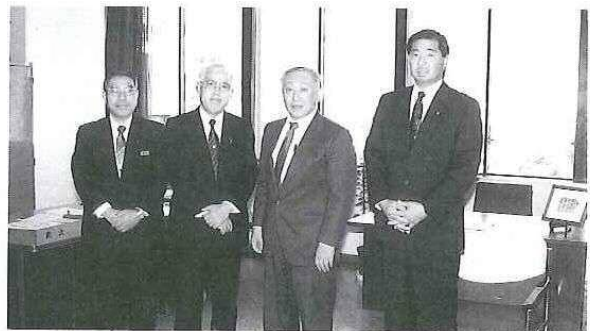


シスターシティ・サンノゼ事務局長来岡
('91.10.14~16)

シスターシティ・サンノゼ(パシフィック・ネイバース)事務局長ローズ・タイタス氏が来岡し、交換学生制度の見直しなどについて関係者と懇談した。(写真:ナカシマプロペラ(株)表敬訪問)

アメリカの教育改革を目指して('91.11.10~17)

サンノゼ・イーストサイド・ユニオン高校地区教育関係者(元理事長リチャード・タナカ氏、アンドリュウ高校教頭ブルース・シミズ氏)が来岡。県内の高校の視察や教育関係者らと懇談した。



サンホセ姉妹都市縁組の夕べ('92.1.25)

岡山・サンホセ両市の姉妹都市縁組23周年を記念して、岡山サンホセ交流協会主催「サンホセ姉妹縁組の夕べ」が市内の喫茶店サンホセで開催。サンホセに所縁のある人々が和やかに懇談する会場では「サンホセ市展」も同時に開かれ、サンホセの民芸品の展示やコスタリカコーヒーの即売が行われ、券囲気を盛り上げた。

交流のあゆみ展開催('92.2.3~7)

昨年9月に派遣した洛陽市民親善訪中団の交流を中心として過去10年の交流のあゆみを約120枚の写真で紹介した。なお、同時にインターナショナルウィーク'91の写真も掲示した。(於 岡山市役所1階市民ホール)



ホトニ情報

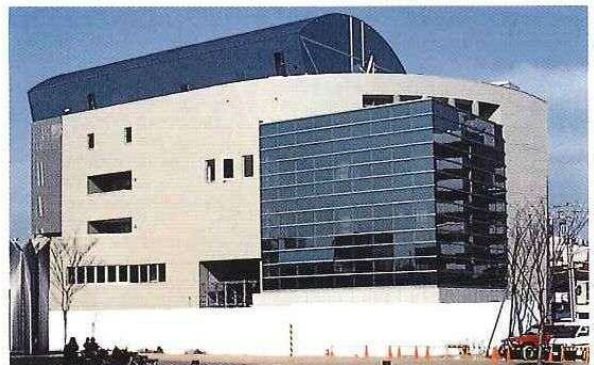
- ・サンノゼ出身のメリッサ・ケインさん（第1回JET英語指導助手、その後就実大講師）と御主人ハリー・ニアル氏が岡山で生まれたサラちゃんと共に3年半住み慣れた岡山を後に帰国。（'91.4.1）
- ・サンノゼ市技術研修生フェルナンド・ピカド・トレホス、ホセ・ラウル・アコスタ・ソロルサノ氏、6ヶ月の研修を終え、離岡。（'91.4.1）
- ・JET英語指導助手ロバート・カスパーさんの両親・祖母が来岡、久しぶりの家族団らんを楽しんだ。（'91.4）
- ・岡山アスコ（株）代表取締役中村包氏、河南省及び洛陽市共催の「中外経済交流会」に出席されるため、洛陽市訪問。（'91.4.12~21）
- ・コンスタンティン・グラヴァナコフ閣下、駐日ブルガリア共和国特命全権大使に就任。（'91.4.）
- ・洛陽市外事弁公室副主任の戴保安氏が、福島県須賀川市での交流事業参加の後、帰国前に岡山に立ち寄った。（'91.5.13~17）
- ・駐日ブルガリア共和国特命全権大使コンスタンティン・グラヴァナコフ閣下大妻及びトマ・チュパロフ二等書記官（商務官）来岡。（東欧友の会副会長島越浩氏の招待）（'91.5.29/30）
- ・コストリカ大洋岸リモン市より南西約44kmを震源地として、震度7.4の大地震発生。幸いサンノゼ市では被害はほとんどなく、死傷者も無し。（'91.4.22）
- ・シスターシティ・サンノゼ（バシフィック・ネイバース）会長に弁護士トーマス・スタッツマン氏が就任。（'91.6）
- ・両備バス（株）不動産部課長代理小山嘉紀氏ほか3名がサンノゼ訪問。同社のすすめる住宅地総合開発計画の一環として、サンノゼ市内の公園や町並みを視察。（'91.6.1~13）
- ・駐日ブルガリア共和国大使館全権公使スタニスラフ・バエフ氏が6年間の任務の後、帰国。同氏は岡山市制100周年記念事業でプロブディフ市長を招待した時、市長夫妻一行と共に来岡されるなど、両市の交流に多大な御尽力をいただいた。（'91.6.3）
- ・川柳岡山社代表、大森風来子氏を団長とするサンノゼ川柳使節団訪米。サンノゼで開催した「全米ユーモア川柳大会」に参加。地元川柳愛好家と交流を深めた。（'91.6.4~10）
- ・平成ライオンズクラブ一行15名（団長佐々木宣夫氏）が教育事情の視察、工場・市場の見学、史跡観光等の目的で洛陽市を訪問。（'91.6.6~11）
- ・昭和63年度受入れサンノゼ交換学生バトリシア・ドリスコールさんが来岡。大学卒業後は、アメリカン・エアラインのステュワーデスとして活躍中。
- ・岡山アスコグループ（岡山アスコ（株）、岡山セメコン（株）代表取締役社長中村包氏）、日中合弁会社「洛陽華中工具有限公司」が開業。（'91.6.17）
- ・平成元年度受入れサンノゼ交換学生リサ・ガントさん来岡。（現在、英語教師として東京在住）お世話になったホスト・ファミリー、日本文化教師等と旧交を温めた。（'91.6.21~7.1）
- ・岡山県日中友好書道協会主催、第5回日中友好書道展が、岡山県総合文化センターにて開催。洛陽書道家の作品も展示された。（'91.7.16~21）
- ・サンノゼ出身のJET英語指導助手ロバート・カスパーさん帰国。（'91.7）
- ・岡山YMCA主催「高校生国際交流訪米の旅」一行5名がサンノゼ訪問。滞在中はワールド・キャンプ'91に参加し、世界20カ国から集まった高校生と交流を深めた。（'91.8.1~22）
- ・岡山市立深砥小学校（高田祐貴校長）と洛陽市外国語学校小学校部（王楚琴校長）が友好校縁組を締結。（県少林寺拳法連盟友好訪中団の橋渡しによる）（'91.8.14）
- ・洛陽市白馬寺に中村包氏が梵鐘を寄贈。鐘撞き堂が完成した。（'91.9）
- ・第21回日米市長及び商工会議所会頭会議（仙台市開催）に岡山市長代理として、森本京岡山市助役が参加。サンノゼ市からは、市長代理として、ヨシ・ウチダ、スティーブ・ワイナー両氏が出席。（'91.10.1~3）
- ・プロブディフ市長にガラベッド・トマジャン氏就任。（'91.10）
- ・洛陽市長に張世軍氏（元市長代理）が就任。（'91.10）
- ・岡山・プロブディフ姉妹都市縁組20周年記念事業事前打合わせのため、藤岡岡岡山市市長公室国際交流主幹並びに横田義明岡山商工

- 会議所産業商工部次長がプロブディフ市を訪問。（'91.12.4~8）
- ・サンノゼ市元プロトコール担当バート・ガーリッツ氏退職に際して、長年の功績を称え、岡山市長より感謝状と記念品を贈呈。（'91.12）
- ・サンノゼ日本町コーポレーション会長ヨシ・ウチダ氏来岡。同社東京事務所開設に際して、岡山にも立ち寄られたもの。東京事務所所長、福田満氏らも同行。（'92.1.23）
- ・1986年10月、岡山・サンノゼ姉妹都市縁組30周年を記念して寄贈されたレッド・ウッド（アメリカ杉）は市内の育苗所で育てられていたが、浦安公園に植えかえられた。（'92.2.6）
- ・（株）アジア・コミュニケーションズの招きで、洛陽対外友好服務中心（総経理 方双建ほか3名）一行が来岡。（'92.2.21~3.1）
- ・サンノゼ・シスターシティ・サンノゼ（バシフィック・ネイバース）副会長（岡山担当）にアラン・ピナー氏が就任（'92.3）
- ・洛陽市外事弁公室副主任の戴保安氏他一行3名が6月に開催予定の洛陽物産展覧会（仮称）の打ち合わせのために来岡。（'92.3.30~4.2）

おしらせ

「西川アイプラザ」いよいよオープン!!

市制施行100周年記念事業のひとつとして下石井公園と幸町図書館の一体的再整備が進められていましたが、5月12日にいよいよオープンします。この図書館部分の正式名称は『西川アイプラザ』と決まりました。この『アイ』は「愛」やインターナショナル、インフォメーションの『I』を抽象的にイメージしたものです。同館4階には『友好交流サロン』が開設され、国際交流の場として活用していくこととなります。今後は本協議会事務局の機能も同サロンに移行し、市秘書課の職員が対応することになります。



西川アイプラザ全景

岡山市国際交流協議会
岡山市役所秘書課内
〒700 岡山市大供1-1-1
Tel 0862-25-4211（内線3312）
発行日 1992年3月31日